

平成27年度 学校関係者評価書

学校名	和歌山市立西和佐小学校
作成日	平成28年2月18日

1 教育目標

強いからだと明るい心を持つ子どもの育成

2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標に対する意見	◇学校の取り組みを地域に伝えていくために、教職員の地域や学校に対する理解を深めることが開かれた学校のベースとなるだろう。学校の百周年記念誌などには地域の変遷も含めて参考になることが書かれている。千塚古墳など地域の方を講師に招いての研修もいいだろう。	◇ゆたかな心の中には学校や地域を思う教育も必要ではなかろうか。学校や地域にはこんなすばらしい歴史があるということを知り、地域を思う心を育てることが大事である。地域を思う心が親や親せきなどを大事にするゆたかな心につながっていく。	◇子どもたちの学力を高めていくには学校だけでなく、保護者とどう連携していくかということも大切である。家庭での学習が少ないということが、子どもたちや保護者のアンケートにあり、学校外（自宅）での学習のしかたについても考えていくことが大事である。
取組の状況に対する意見	◆学校開放月間があるのはありがたいが、保護者が入りづらいところもある。育友会で保護者の係りの方が玄関で案内している学校もあるが、足を踏み入れやすいようにしてほしい。 ◆開かれた学校になっていくには、保護者どうしのつながりも大切である。育友会活動などを通して、横のつながりを増やしていくことが学校と保護者・地域が繋がっていくことになる。	◆「にしわさ活動」で高学年と低学年がふれあうのは豊かな人間関係づくりにつながると思われる。マンネリ化にならないよう成果と課題を洗い出し、充実・発展させてほしい。 ◆子どもたちが落ち着き、真面目に学校生活を送っているのは、道徳や人権教育、読書活動などの成果であろう。	◆学力向上への先生方の頑張りが見える。 ◆保護者が学校の先生方と協力して子どもたちの学力や生活習慣に気をつけていかなければならないが、育友会活動をやってみて、保護者の協力が足りないところもあるかなと感じた。
検証結果に対する意見	○学校から保護者以外の地域にも学校の取り組みなどをどうわかりやすく伝えていくかが課題である。 ○学校と地域の人々のつながりという点では、子どもたちが地域の人に元気よく挨拶できるということも大事である。	○子どもたちが落ち着いた学校生活を送れていることは先生方の努力のたまものである。保護者や教員の学校評価で、「あまり思わない」と回答しているものを分析して、どう改善につなげるかということを考えてほしい。	○学校での学習とともに家庭学習が大切である。子どもも保護者も家庭学習が少ないことを認めている。家庭で自分の好きな学習をすることも含めて家庭学習を増やしていくことが大事である。
改善方法に向けての意見	◎学校から地域への回覧版などに学校からのたよりを入れると地域の方にもよくわかるようになる。子どもや孫が小学校にいないと、学校のことをわかりにくい。校長の随筆的なものでも入れていけば地域の学校への理解が広がるのではなかろうか。	◎教職員の評価で、教職員自身が課題と思っているところが少なくなるように努めてほしい。子どもたちが困っていることを聞いてよい方向につなげていくなど、課題の中から今年度はこれをしていくという重点をしぼって取り組みを考えてほしい。	◎教職員の特別活動に関する評価で、「自主的に活動できている」という項目は、「あまりそう思わない」と考える割合が2割ほどある。自主的に活動できる力をつけることや夢をもたせることによって学力を身に付けていける集団になってほしい。

3 其他のご意見

- ◆読書活動の充実に向けた図書整備や図書ボランティア、読書貯金など、学校は頑張ってくれている。
- ◆トイレの改善が計画的に進むようにしてほしい。